

2014年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見通し

2014年2月7日
オリンパス株式会社
取締役専務執行役員
グループ経営統括室長
竹内 康雄

(1) 2014年3月期第3四半期連結業績 およびセグメント別概況

第3四半期決算のハイライト

外部環境

- 世界経済： 米国を中心に緩やかな回復傾向が続いているものの、中国を始めとした新興国市場の先行きや欧州債務問題などに留意が必要
- 日本経済： 景況感の回復により設備投資や個人消費は増加傾向だが、消費税引き上げ前の駆け込み需要を考慮する必要がある

① 全社業績：医療事業が牽引し、営業利益は前年比倍増

② 医療事業：引き続き好調、過去最高の売上高・営業利益

③ 財務体質：自己資本比率は30%超、中計目標を前倒しで達成

2014年3月期 第3四半期実績(前年同期比) ①連結業績概況

◆10-12月期は増収・増益傾向が鮮明:営業利益⇒約3倍、純利益⇒138億円

(単位:億円)	2013年3月期 3Q累計(4-12月)	2014年3月期 3Q累計(4-12月)	増減額	前年 同期比	2013年3月期 3Q(10-12月)	2014年3月期 3Q(10-12月)	前年 同期比
売上高	5,612	5,137	△ 476	△ 9%	1,555	1,798	+ 16%
販管費 (販管費率)	2,503 (44.6%)	2,674 (52.1%)	+ 171 (+ 7.5pt)	+ 7%	809 (52.1%)	911 (50.6%)	+ 13%
営業利益 (営業利益率)	246 (4.4%)	499 (9.7%)	+ 253 (+ 5.3pt)	+ 103%	66 (4.2%)	214 (11.9%)	+ 226%
経常利益 (経常利益率)	87 (1.6%)	341 (6.6%)	+ 254 (+ 5.0pt)	+ 290%	13 (0.9%)	172 (9.5%)	+ 1,176%
四半期純利益 (純利益率)	76 (1.4%)	58 (1.1%)	△ 18 (△ 0.3pt)	△ 23%	△ 4 (-)	138 (7.7%)	-
<為替レート・影響額>							
円/US\$	80円	99円	19円(円安)				
円/EURO	102円	132円	30円(円安)				
売上高への影響額	-	+ 787億円					
営業利益への影響額	-	+ 195億円					

2014年3月期 第3四半期実績(前年同期比) ②セグメント別業績

◆主要3事業の増益により、営業利益は大幅に改善

(単位:億円)		2013年3月期 3Q累計(4-12月)	2014年3月期 3Q累計(4-12月)	増減額	前年 同期比
医療	売上高	2,702	3,515	+ 812	+ 30%
	営業利益	564	786	+ 222	+ 39%
ライフ・産業	売上高	575	676	+ 101	+ 18%
	営業利益	12	21	+ 9	+ 75%
映像	売上高	869	750	△ 119	△ 14%
	営業利益	△ 88	△ 44	+ 44	-
情報通信	売上高	1,142	-	△ 1,142	-
	営業利益	17	-	△ 17	-
その他	売上高	324	196	△ 127	△ 39%
	営業利益	△ 33	△ 44	△ 11	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	△ 226	△ 220	+ 6	-
連結合計	売上高	5,612	5,137	△ 476	△ 9%
	営業利益	246	499	+ 253	+ 103%

2014年3月期 第3四半期実績(前年同期比) ③医療事業

- ◆ 新製品効果により、3Q・3Q累計共に過去最高の売上高、営業利益を計上
- ◆ 引き続き国内市場が高い成長を維持、欧州も下げ止まり感が見られる

第3四半期累計 (4-12月期)



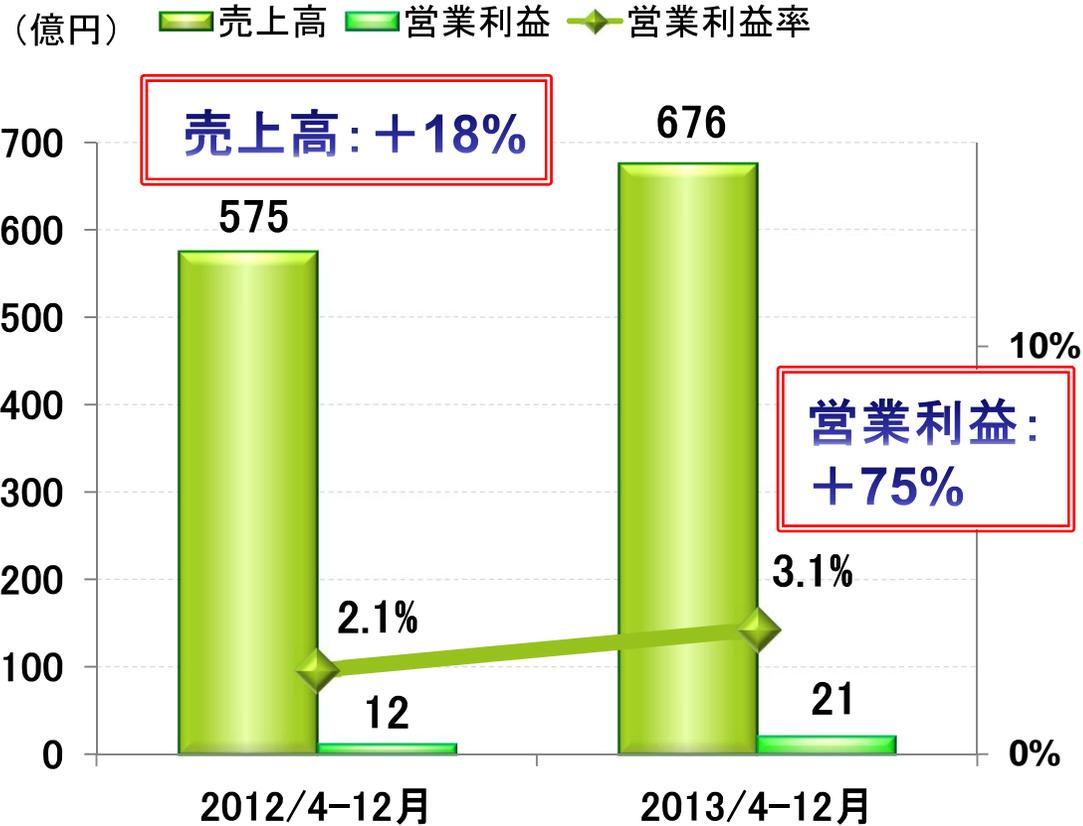
3Q (10-12月期)



2014年3月期 第3四半期実績(対前年同期比) ④ライフ・産業事業

- ◆ 国内市場の活性化と新製品の販売効果により増収・増益
- ◆ 特に10-12月期は、増収(+22%)・増益(+14億円)傾向が鮮明

第3四半期累計 (4-12月期)



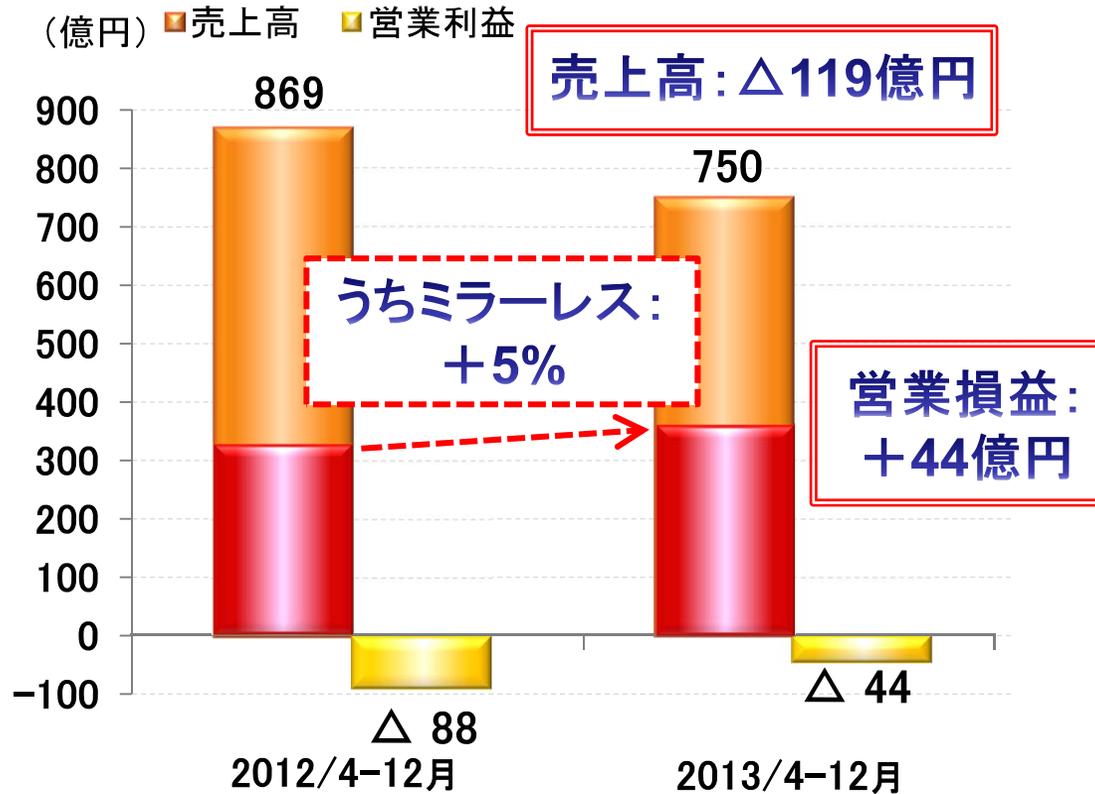
3Q (10-12月期)



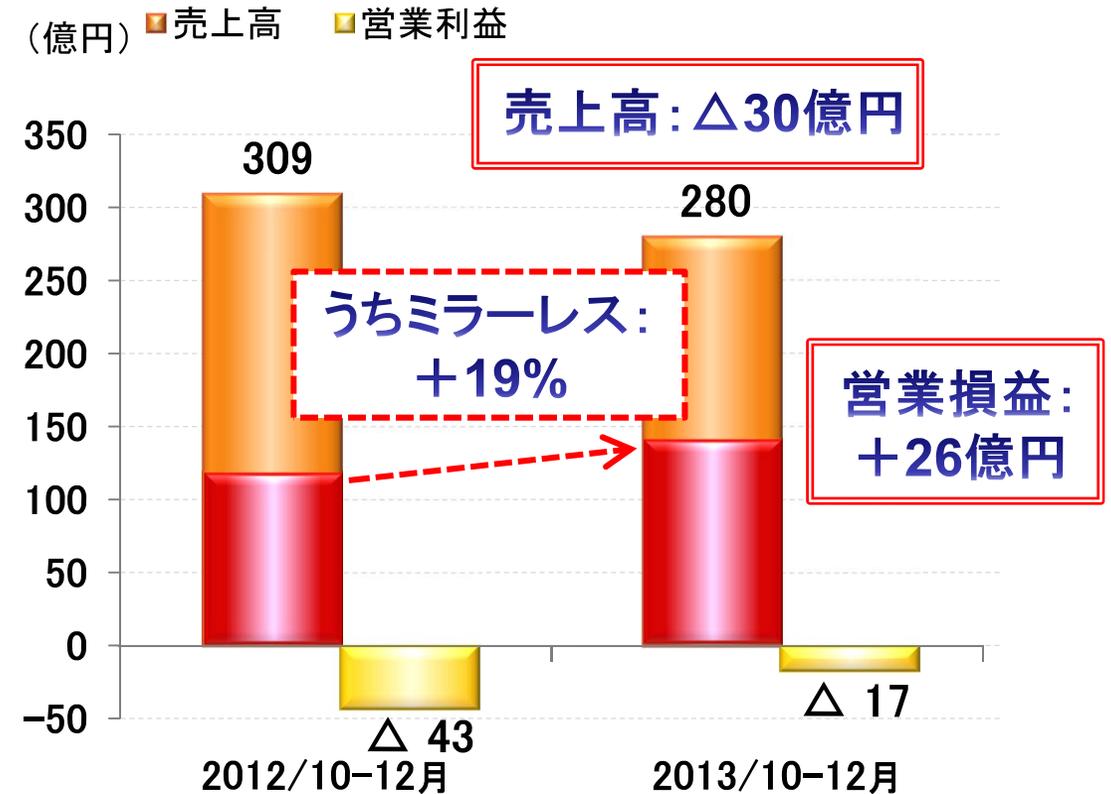
2014年3月期 第3四半期実績(前年同期比) ⑤映像事業

- ◆ コスト削減等の適正な費用コントロールを実行し、営業損失は大幅に改善
- ◆ 新製品OM-D E-M1が牽引し、ミラーレスは3Q(10-12月期)に19%増収
 ↳ 売上高比率に占めるミラーレスシフトの推進、交換レンズの売上拡大

第3四半期累計 (4-12月期)



3Q (10-12月期)



2014年3月期 第3四半期実績(前年同期比) ⑤映像事業

損益の状況(4-12月)

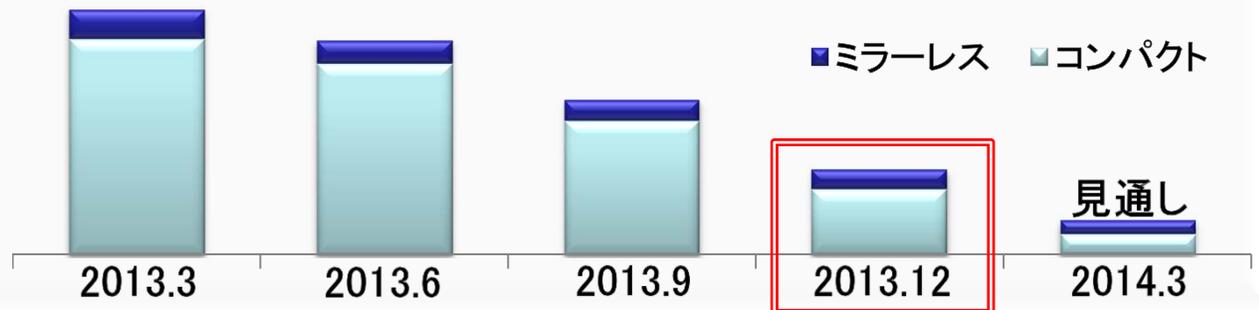
- ミラーレス売上高比率*の向上
 - ✓ 高級機種OM-D E-M1によって、ミラーレス売上高比率*が向上し、粗利・原価が改善(*2013/3期:35% ⇒ 2014/3期:43%)
 - ✓ 交換レンズ本数は昨年比 30%以上増加
- コスト削減施策の進捗
 - ✓ 円安による増加要因がありながらも、コスト改善施策によって、販管費削減

(単位:億円)	2013/3期	2014/3期	増減
売上高	869	750	△119
コンパクトカメラ	466	333	△133
SLR(ミラーレス)	307	324	+17
その他(録音機)	95	93	△2
売上総利益	322	337	+14
販管費	410	380	△29
営業損益	△88	△44	+44

リスクの極小化

- 在庫圧縮の進展
 - ✓ コンパクトカメラ在庫は、台数ベースで2013年3月末比 70%減少 (うち旧モデルの削減率は90%以上)

在庫削減状況(台数ベース)

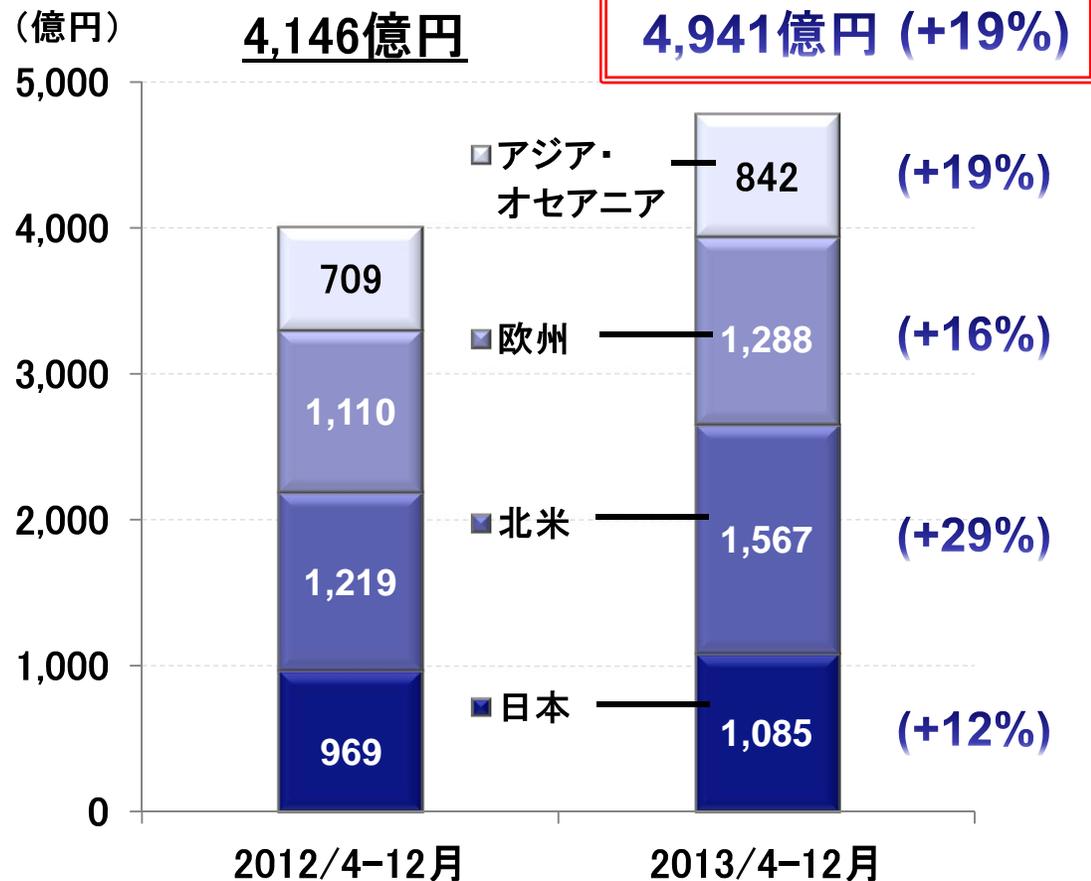


2014年3月期 第3四半期実績(前年同期比) ⑥地域別売上高(主要3事業)

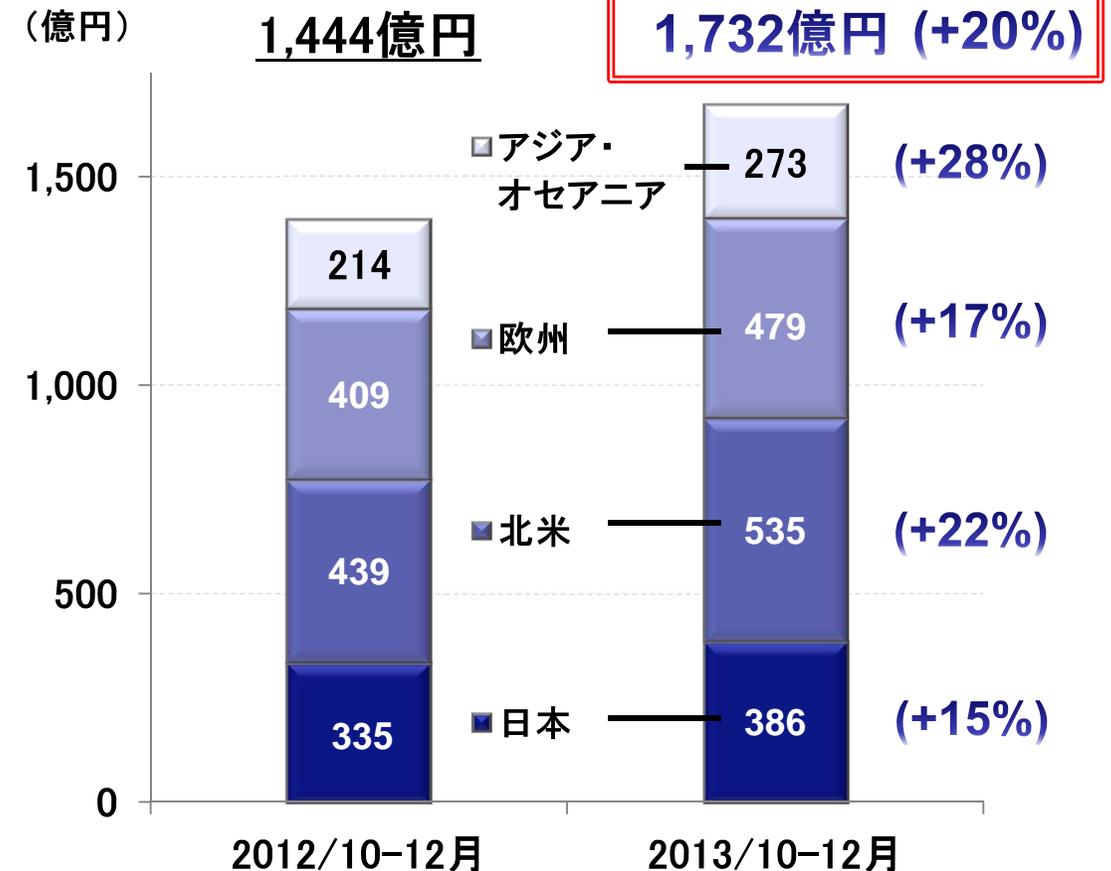
◆ 好調な医療事業が大きく牽引し、全地域で増収

(医療事業の4-12月期成長率: 国内+23%、北米+37%、欧州+25%、アジア・オセアニア+36%)

第3四半期累計 (4-12月期)



3Q (10-12月期)



2014年3月期 第3四半期実績進捗状況

医療

売上高

腐敗防止運動等の影響を受けた中国、および計画値の高い北米の未達を好調な日本がカバーし、見通しに沿った進捗

営業利益

収益性の高い消化器内視鏡の新製品販売が好調に推移し、見通しに沿った進捗

ライフ・産業

売上高

政府予算削減の影響を受けた欧米で売上高が未達となったものの、国内市場の活性化と新製品効果によって日本が見通しを上回り、見通しに沿った進捗

営業利益

売上高の達成に加え、原価改善、販管費削減によって、見通しに沿った進捗

映像

売上高

OM-Dは好調に推移したものの、PENシリーズの販売台数が減少し、想定水準を下回った

営業利益

収益性の高いOM-Dの販売比率向上によって粗利・原価が改善したことに加えて販管費圧縮の効果もあり、見通しに沿った進捗

貸借対照表(2013年12月末)

◆ 自己資本比率は30%超まで回復、中期ビジョン最終目標(2017年3月期)を前倒しで達成

(単位:億円)	2013年 3月末	2013年 12月末	増減		2013年 3月末	2013年 12月末	増減
流動資産 (デジカメ在庫)	5,410 (236)	5,682 (218)	+272 (△17)	流動負債	3,169	2,633	△536
有形固定資産	1,298	1,420	+122	固定負債 (内:社債・長期借入金)	4,915 (4,229)	4,355 (3,570)	△560 (△658)
無形固定資産	1,746	1,816	+70	純資産	1,519	3,289	+1,770
投資その他資産	1,148	1,358	+210	(自己資本比率)	(15.5%)	(31.8%)	(+16.3pt)
資産合計	9,602	10,276	+674	負債 純資産 合計	9,602	10,276	+674

有利子負債 : 4,336億円(2013年3月末比 △1,268億円)
 純有利子負債 : 1,844億円(2013年3月末比 △1,464億円)

キャッシュフローの状況(2013年4-12月)

(単位:億円)	2013年3月期 3Q (2012年4-12月)	2014年3月期 3Q (2013年4-12月)	増減
売上高	5,612	5,137	△476
営業利益	246	499	+253
(%)	4.4	9.7	+5.3pt
営業CF	0	438	+438
投資CF	354	△139	△493
財務CF	△314	△217	+97
キャッシュフロー	40	82	+42
フリーキャッシュフロー	354	299	△55
現金及び現金同等物期末残高	2,077	2,484	+406
減価償却費	243	261	+19
のれん償却額	74	70	△4
設備投資額	206	263	+57

(2) 2014年3月期通期見通し

2014年3月期 連結通期見通し

◆ 連結ベースの3Qまでの進捗はほぼ予定通り、通期見通しは2Q時点の計画値を据え置き

(単位:億円)	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (最新見通し)	前期比 増減額	前期比 (%)
売上高	7,439	7,200	△ 239	△ 3%
営業利益 (営業利益率)	351 (4.7%)	725 (10.1%)	374 (+5.4pt)	+107%
経常利益 (経常利益率)	130 (1.8%)	500 (6.9%)	370 (+5.1pt)	+284%
当期純利益 (当期純利益率)	80 (1.1%)	130 (1.8%)	50 (+0.7pt)	+62%
<為替レート・影響額>				
円/US\$	83円	99円	+16円(円安)	
円/EURO	107円	133円	+26円(円安)	
売上高への影響額	-	+925億円		
営業利益への影響額	-	+240億円		

2014年3月期 セグメント別業績見通し

◆ 各セグメントも2Q時点の計画値を据え置き

(単位:億円)		2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (最新見通し)	前期比 増減額	前期比 (%)
医療	売上	3,947	4,900	+ 953	+ 24%
	営業利益	871	1,100	+ 229	+ 26%
ライフ・産業	売上	855	1,000	+ 145	+ 17%
	営業利益	35	45	+ 10	+ 29%
映像	売上	1,076	1,040	△ 36	△ 3%
	営業利益	△ 231	△ 50	+ 181	-
その他	売上	417	260	△ 157	△ 38%
	営業利益	△ 49	△ 50	△ 1	-
全社・消去	売上	-	-	-	-
	営業利益	△ 293	△ 320	△ 27	-
連結合計	売上	7,439	7,200	△ 239	△ 3%
	営業利益	351	725	+ 374	+ 107%

2014年3月期業績 映像事業の第4四半期

- OM-Dシリーズ及びレンズビジネス強化により、ミラーレス売上比率を高める
- 欧米においても高い評価を受けたOM-Dシリーズのラインナップを拡充

✓ レンズビジネスの強化

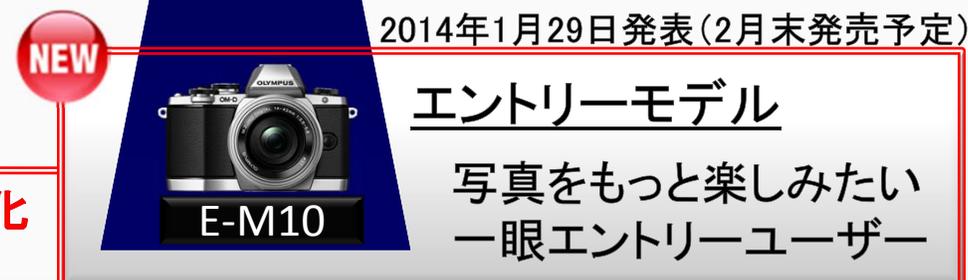
レンズ付帯率の高いOM-Dを軸とした戦略により、粗利の向上と、事業の収益性を高める

✓ 欧州・米国市場の活性化

OM-D E-M1の成功事例をベースとして、新たに投入したE-M10で欧米市場の販売を拡大する

	販売状況	
	フラッグシップ	ミドル・エントリー
欧州・米国	OM-D: ◎	PEN: △
日本・アジア	OM-D: ◎	PEN: ○

★ OM-Dシリーズラインナップ

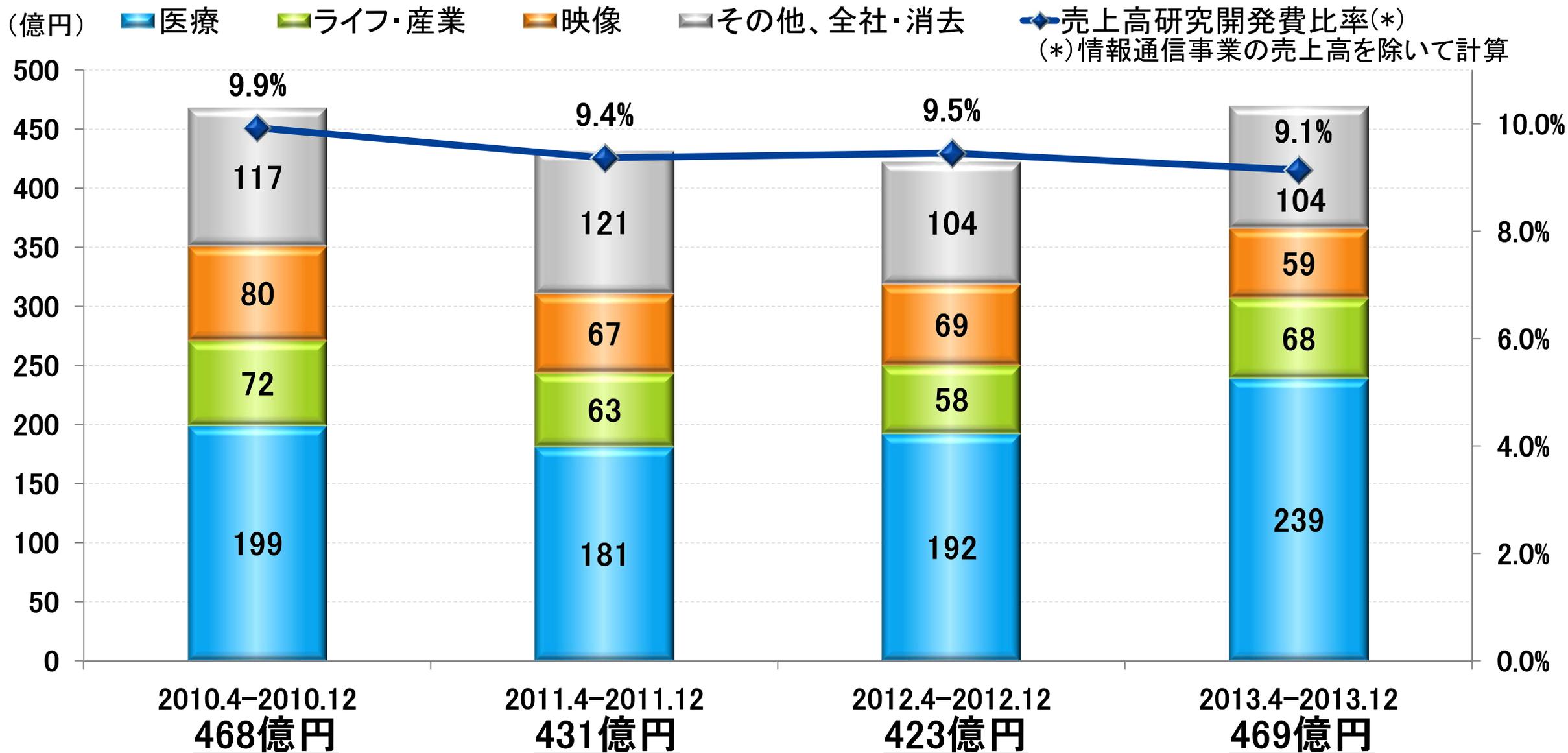


活性化

OLYMPUS

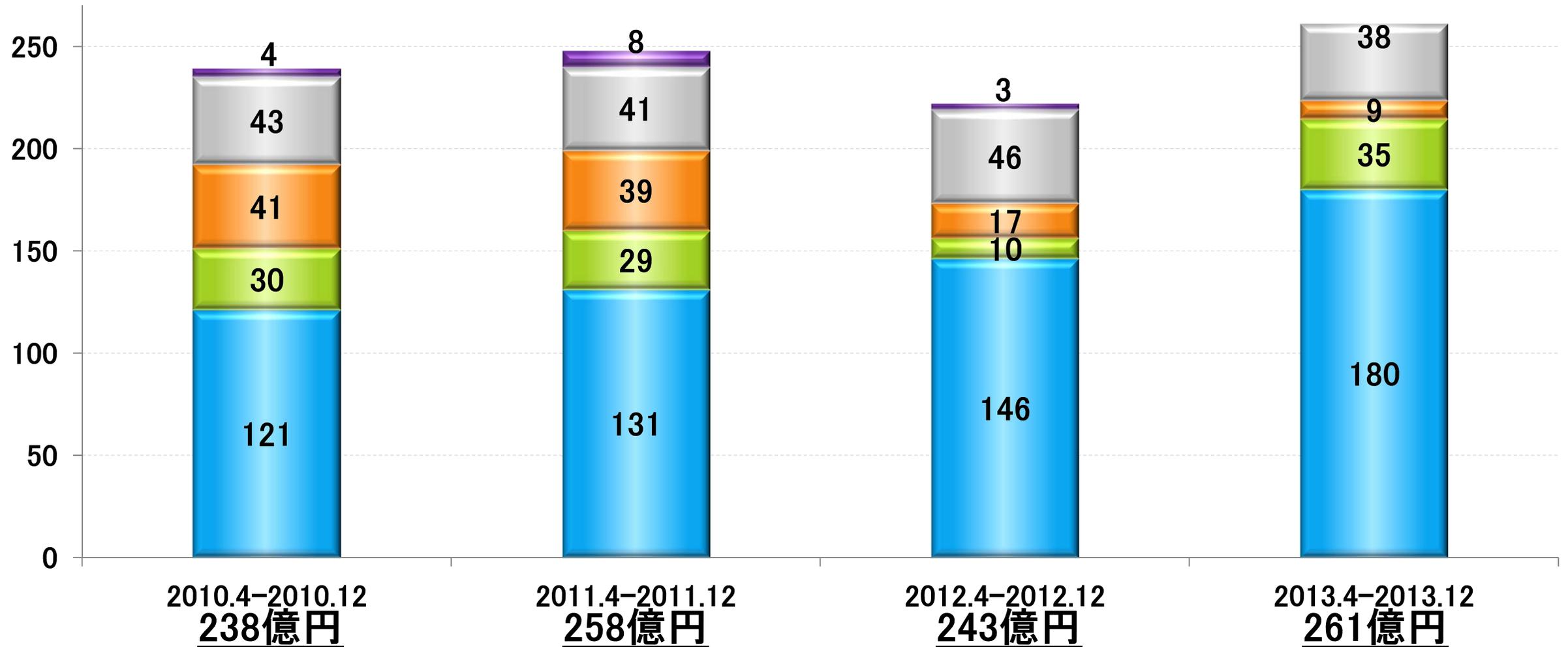
参考資料

【参考資料】 研究開発費



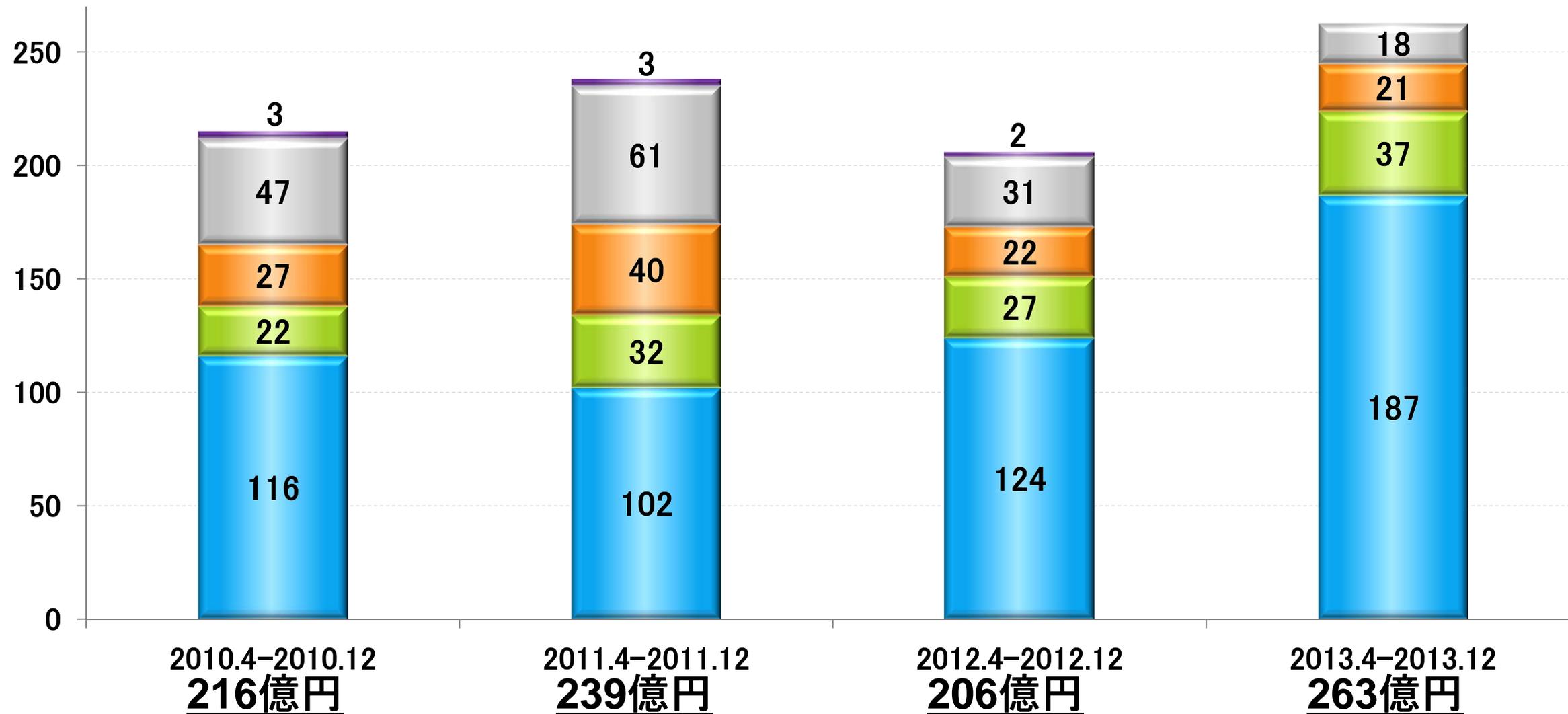
【参考資料】 減価償却費

(億円) ■医療 ■ライフ・産業 ■映像 ■その他、全社・消去 ■情報通信

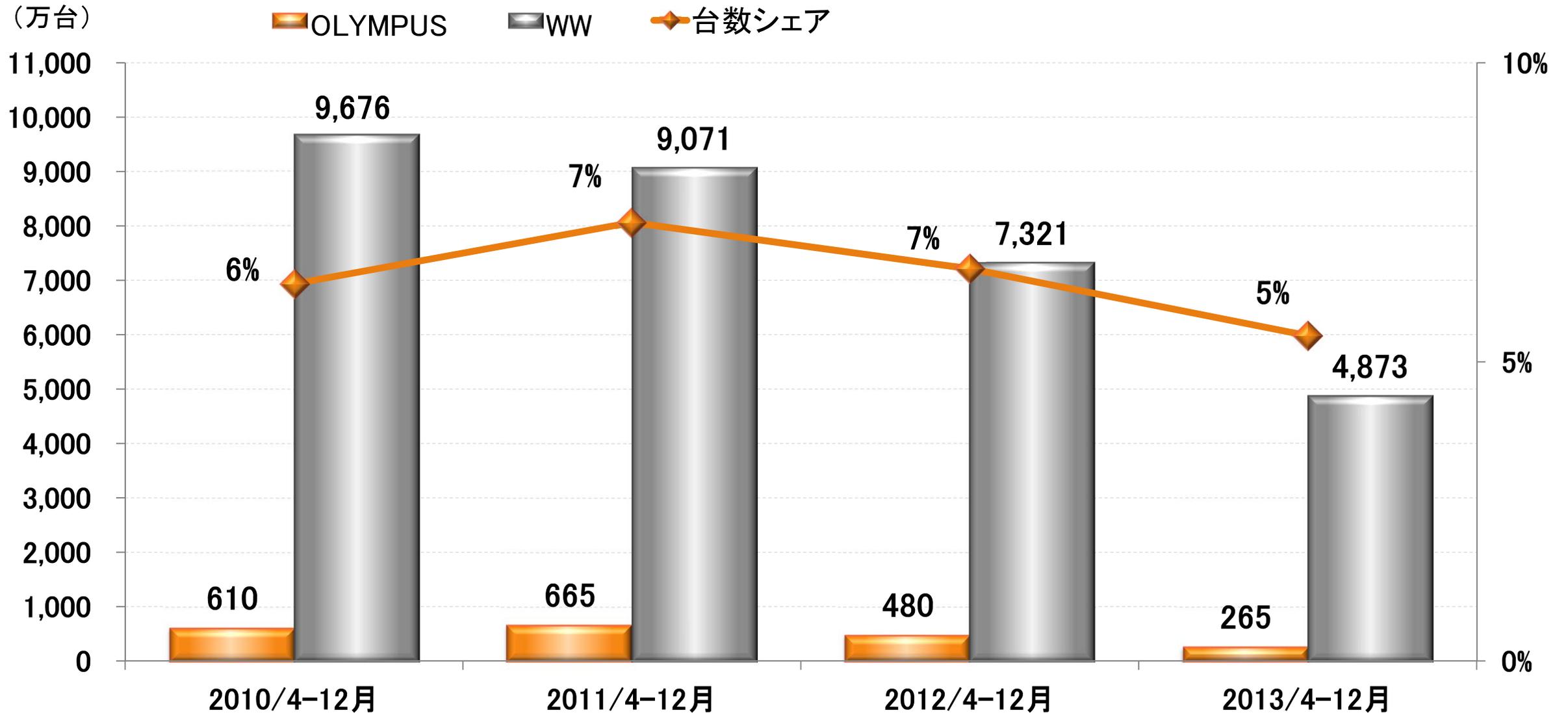


【参考資料】 設備投資

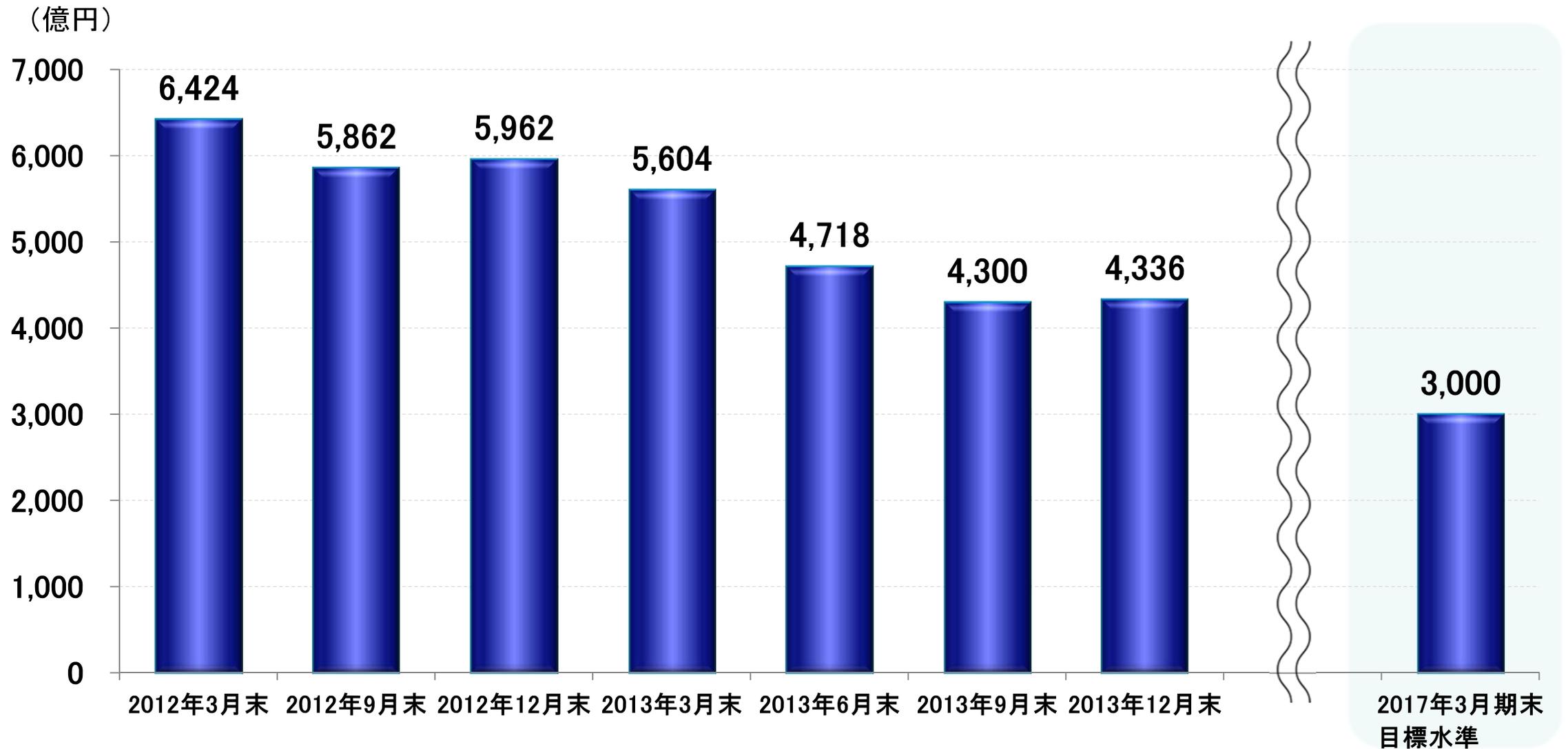
(億円) ■医療 ■ライフ・産業 ■映像 ■その他、全社・消去 ■情報通信



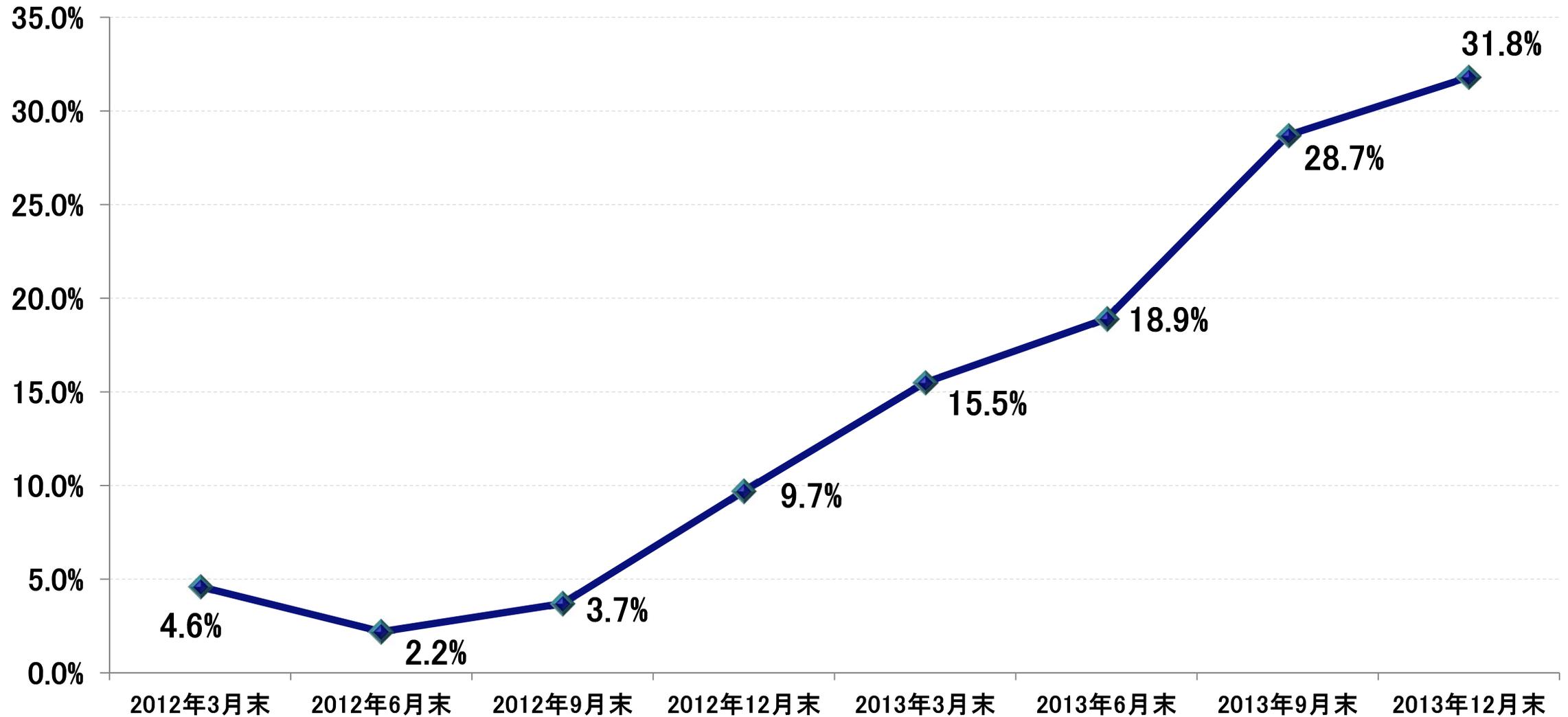
【参考資料】 デジタルカメラ



【参考資料】 有利子負債



【参考資料】 自己資本比率



【参考資料】 中期経営計画(評価指標)

	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 第3四半期(実績)	2017年3月期 (目標水準)
投下資本利益率 (ROIC)	2.7%	-	10%以上
営業利益率	4.7%	9.7%	10%以上
フリーキャッシュフロー (営業CF+投資CF)	587億円	-	700億円以上
自己資本比率	15.5%	31.8%	30%以上

【為替前提】 US\$ =90円 EUR=120円
(*) 2013年5月15日発表数値

【参考資料】 中期経営計画(連結目標数値)

	2015年3月期	2017年3月期
売上高	7,600億円	9,200億円
営業利益 (営業利益率)	930億円 12%	1,430億円 16%
経常利益 (経常利益率)	700億円 9%	1,250億円 14%
当期純利益 (当期純利益率)	450億円 6%	850億円 9%

【為替前提】 US\$ = 90円 EUR = 120円
(*) 2013年5月15日発表数値

【参考資料】 中期経営計画(セグメント目標数値)

		2015年3月期	2017年3月期
売上高	医療	5,200億円	6,500億円
	ライフ・産業	1,150億円	1,350億円
	映像	1,000億円	1,000億円
	その他	250億円	350億円
	合計	7,600億円	9,200億円
営業利益	医療	1,110億円	1,500億円
	ライフ・産業	90億円	150億円
	映像	70億円	90億円
	その他	▲10億円	10億円
	全社・消去	▲330億円	▲320億円
	合計	930億円	1,430億円

【為替前提】 US\$ = 90円 EUR = 120円
 (*) 2013年5月15日発表数値

OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。